

# 特定非営利活動法人東松島市体育協会定款

## 目次

第1章	総則（第1条－第2条） 名称、事務所
第2章	目的及び事業（第3条－第5条） 目的、特定非営利活動の種類、事業
第3章	会員（第6条－第12条） 種別、入会、入会金及び会費、会員の資格喪失、退会、除名、会費等の不返還
第4章	役員及び職員（第13条－第20条） 種別及び定数、選任等、職務、任期等、欠員補充、解任、報酬等、職員
第5章	名誉会長、顧問及び参与（第21条）
第6章	総会（第22条－第31条） 種別、構成、権能、開催、招集、議長、定足数、議決、表決権等、議事録
第7章	理事会（第32条－第39条） 構成、権能、開催、招集、議長、議決、表決権等、議事録
第8章	委員会（第40条）
第9章	東松島市スポーツ少年団及び東松島市スポーツ指導者協議会（第41条）
第10章	資産及び会計（第42条－第53条） 資産の構成、資産の区分、資産の管理、会計の原則、会計の区分、事業計画及び予算、暫定予算、 予備費の設定及び使用、予算の追加及び更正、事業報告及び決算、事業年度、臨機の措置
第11章	定款の変更、解散及び合併（第54条－第57条） 定款の変更、解散、残余財産の帰属、合併
第12章	公告の方法（第58条）
第13章	雑則（第59条）
	附則

## 第1章 総則

（名称）

第1条 この法人は、特定非営利活動法人東松島市体育協会という。

（事務所）

第2条 この法人は、主たる事務所を宮城県東松島市に置く。

## 第2章 目的及び事業

（目的）

第3条 この法人は、スポーツ関係諸団体と連携し、生涯スポーツの振興と競技力の向上に関する事業を実施することにより、市民一人ひとりがスポーツを通じて生きがいのある健康的な生活を営み、スポーツから笑顔が生まれる、明るく豊かな地域社会形成に寄与することを目的とする。

（特定非営利活動の種類）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- （1）学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- （2）子どもの健全育成を図る活動

（事業）

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）特定非営利活動に係る事業
  - ①加盟団体等の育成強化と相互の連絡融和
  - ②各種スポーツ行事、講習会の開催

- ③優秀選手の発掘とその養成等
  - ④スポーツに関する調査研究とその普及
  - ⑤スポーツ功労者等の表彰
  - ⑥生涯スポーツの基盤となる地域スポーツクラブの調査研究と推進
  - ⑦スポーツ少年団の育成強化等
  - ⑧スポーツ指導者の養成強化等
  - ⑨スポーツ普及啓発のための広報活動
  - ⑩その他目的を達成するために必要な事業
- (2) その他の事業を行う。
- ①自動販売機によるジュース等の販売
  - ②スポーツ物品の販売

2前項第2号に掲げる事業は、同項第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は、同項第1項に掲げる事業に充てるものとする。

### 第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人（以下「個人正会員」という。）及びこの法人の目的に賛同して入会した団体（以下「団体正会員」という。）をいう。
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人及び企業等をいう。

(入会)

第7条 会員として入会しようとする者は、会長が別に定める入会申込書により、会長に申し込むものとし、会長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

2 会長は、前項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格喪失)

第9条 会員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、会長が別に定める退会届を会長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 法令、又はこの法人の定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又はこの法人の目的に反する行為をしたとき。

(会費等の不返還)

第12条 既に納入された入会金、会費及びその他の金品は、返還しない。

### 第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上10人以内
  - (2) 監事 1人以上3人以内
- 2 理事のうち、1人を会長、2人以上3人以内を副会長、1人を専務理事、1人を常務理事とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 会長及び副会長並びに専務理事、常務理事は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 会長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 会長以外の理事は、法人の業務についてこの法人を代表しない。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

4 専務理事は事務局を指揮監督し、副会長に事故あるときは、その職務を代行する。

5 常務理事は専務理事を補佐し、専務理事に事故あるときは、その職務を代行する。

6 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会または理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

7 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定に関わらず、後任の役員が選定されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任の役員が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て会長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人の事務を執るため、事務局に職員を置く。

2 職員は、会長が任免する。

## 第5章 名誉会長、顧問及び参与

(名誉会長、顧問及び参与)

第21条 この法人には、名誉会長、顧問及び参与を置くことができる。

2 名誉会長、顧問及び参与は、理事会の推薦により会長が委嘱する。

3 名誉会長、顧問及び参与は、会議に出席し意見を述べることができる。

## 第6章 総会

(種別)

第22条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第23条 総会は、個人・団体正会員で構成する。

(権能)

第24条 総会は、次の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員の選任、解任及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第53条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) その他運営に関する重要事項

(開催)

第25条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第7項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第26条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、会長が招集する。

- 2 会長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールをもって、少なくとも総会の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第27条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第28条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第29条 総会における議決事項は、第26条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 理事または社員が、総会の目的である事項について提案した場合において、社員の全員が書面並びに電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の議決があったものとみなす。

(表決権等)

第30条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、第28条、第29条第2項および第31条第1項の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第31条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
  - (3) 審議事項
  - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。
  - 3 前2項の規定に関わらず、正会員全員が書面ならびに電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会

の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 総会の決議があったとみなされた事項の内容
- (2) 前号の事項を提案した者の氏名または名称
- (3) 総会の決議があったものとみなされた日
- (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

## 第7章 理事会

(構成)

第32条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第33条 理事会は、この定款で別に定めるもののほか、次の事項について議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事業の執行に関する事項
- (3) 総会の議決した予算の補正に関する事項
- (4) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第34条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第7項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第35条 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも理事会の3日前までに通知しなければならない。

(議長)

第36条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(議決)

第37条 理事会における議決事項は、第35条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第38条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第39条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
  - (3) 審議事項
  - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

## 第8章 委員会

(委員会)

第40条 この法人に、必要に応じ理事会の議決を経て、委員会を置くことができる。

- 2 委員会に委員長を置き、会長の指名する理事がこれに当たる。

- 委員会の名称、委員その他必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

## 第9章 東松島市スポーツ少年団及び東松島市スポーツ指導者協議会

(東松島市スポーツ少年団及び東松島市スポーツ指導者協議会)

第41条 この法人に、東松島市スポーツ少年団（以下「少年団」という。）及び東松島市スポーツ指導者協議会（以下「指導者協議会」という。）を置く。

- 少年団は第5条第1項第7号、指導者協議会は第5条第1項第8号に関連する事業について、別に定めるところに従い、事業の決定及び実施の権限を有する。
- 少年団及び指導者協議会の設置に関する必要な事項については、理事会の議決を経て別に定める。

## 第10章 資産及び会計

(資産の構成)

第42条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- 設立当初の財産目録に記載された資産
- 入会金及び会費
- 寄附金品
- 財産から生じる収益
- 事業に伴う収益
- その他の収益

(資産の区分)

第43条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産及びその他の事業に関する資産の2種とする。

(資産の管理)

第44条 この法人の資産は、会長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、会長が別に定める。

(会計の原則)

第45条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第46条 この法人の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する会計及びその他の事業に関する会計の2種とする。

(事業計画及び予算)

第47条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、会長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第48条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、会長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講ずることができる。

- 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第49条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

- 予備費の使用は会長が専決できるものとするが、後日、その用途等を理事会に報告しなければならない。

(予算の追加及び更正)

第50条 予算作成後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正等、補正することができる。

- 前項の規定にかかわらず、災害等緊急を要する事由が生じたときに限り会長は既定予算の追加又は更正等を専決できるものとする。ただし、その用途等について、理事会へ報告しなければならない。

(事業報告及び決算)

第51条 この法人の事業報告書、活動予算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、会長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

- 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第52条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第53条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第11章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第54条 この法人が定款を変更しようとするときは、正会員の2分の1以上の出席を得て、総会に出席した正会員の4分の3以上の議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する以下の事項を変更する場合は、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁変更を伴うものに限る）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に関する事項を除く）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合における、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき事項に限る）
- (10) 定款の変更に関する事項

(解散)

第55条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
  - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
  - (3) 正会員の欠亡
  - (4) 合併
  - (5) 破産手続開始の決定
  - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の議決を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第56条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、東松島市に譲渡するものとする。

(合併)

第57条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第12章 公告の方法

(公告の方法)

第58条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

## 第13章 雑則

(細則)

第59条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、会長がこれを定める。

## 附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。  
会長 佐藤 祥

副会長	阿部	朋由
副会長	尾形	清人
副会長	本田	博之
専務理事	氏家	源
常務理事	松尾	壯太
理事	佐藤	直敏
理事	櫻井	一正
理事	村上	孝之
理事	石森	和之
監事	菅野	清光
監事	伊藤	澄夫
監事	越田	浩史

- 3 この法人の設立当初の役員任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成26年5月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の役員報酬は、第19条の規定にかかわらず次に掲げる額とする。
  - (1) 会長 (年額) 10,000円
  - (2) 副会長 (年額) 5,000円
- 5 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第47条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 6 この法人の設立当初の事業年度は、第52条の規定にかかわらず、成立の日から平成25年3月31日までとする。
- 7 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
  - (1) 個人正会員入会金 (入会時のみ) 1,000円
  - (2) 個人正会員会費 (年 額) 2,000円
  - (3) 団体正会員入会金 (入会時のみ) 2,000円
  - (4) 団体正会員会費 (年 額) 5,000円
  - (5) 個人賛助会員会費 (年額 1口) 2,000円
  - (6) 団体賛助会員会費 (年額 1口) 5,000円